

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176502100		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・大宮三橋		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区三橋2-795		
自己評価作成日	平成28年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivgvoCd=1176502100-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 27年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的介助が多、全員で一緒にレクリエーション等を行なうのは難しくなっていますが利用者様一人一人の状態に合わせたレクリエーション等をフロア会議等で話し合っています。一人一人に合った介助の仕方等を見つけ、職員は向上心を持って良い介護が出来るように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度の目標に「相手の事を考える」を挙げ、利用者だけでなく家族・地域との関わりを増やし、サービスに活かせるよう工夫している。調理は外部委託であるが、イベント食や職員提案の食事会・おやつ作りなど利用者が楽しめるような企画にも取り組んでおり、とても好評である。個別で外食や買い物に出かけることもできる。家族には毎月のひとこと通信を活用して日々の様子を伝えている。専門科受診については情報シートを活用し、家族対応でも家族・病院・職員が情報が統一できるよう、そして、家族の受診への不安を取り除けるようにしている。運営推進会議は、曜日や時間を固定しないことで参加者が増えている。共有空間を含め、居室の清掃は、一日一回、職員と一緒にできる利用者が行って衛生管理をしている。また、加湿器を数台おき感染予防に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様のご家族様や近隣住民の皆様、地域包括支援センター等と連携を図り、地域の高齢者介護の拠点として信頼されるよう努め、その理念を職員会議等で全職員が確認すると共に、理念を踏まえた上で実践に取り組んでいます。	法人理念を基に、今年度の目標を「相手の事を考える」を挙げ、スタッフルームに掲示している。また、ランダムに目があった人に目標計画を確認したり、月1回の会議でも確認し実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の催しには、地域のボランティアに来て頂いたり、ご家族様やご友人にも気軽に参加して頂ける様取り組んでいます。	町内会に加入し回覧板が届く。敬老会に参加したり、民謡・バルーンアート・演奏の地域ボランティアには定期的に来ていただき交流を図っている。近くの幼稚園のご厚意で、散歩の途中園庭に入り花見ができる。	事業所の催し等で幼稚園や地域包括支援センターなど、地域との交流がさらに広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会の開催に合わせて、認知症の症状についてやお薬について等の資料を用いながら、勉強会等を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の状況について報告すると共に、今後の運営に関しての要望やアドバイスを頂いています。	2カ月に1度開催。曜日・日時を決めないで調整することで参加者が増えている。会議では精神科受診へ付添う家族の不安が挙げられ、情報シートを活用することで病院・家族・職員が共有できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会から紹介して頂いた民謡のボランティアに定期的に来て頂いています。又、運営推進会議には地域包括支援センターの担当者が出席して下さり、情報共有しています。	地域包括支援センターより、「地域主催の介護サロンを開催するにあたり、場所を活用したい」と相談を受ける等、密に連絡をとり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議内にて身体拘束廃止委員会を実施し、全職員が身体拘束をしないケアについての理解を深めています。	2. 3人の職員グループをランダムに組み、グループごとにテーマ、研修内容を決め、職員が中心となり身体拘束をしないケアについて考え取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議・職員会議等で虐待について等の話し合いをする機会を設けています。又、各ご利用者様のモニタリング時等により良い介護の方法を議論し、その中で不適切な内容が含まれていないか精査しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はフロア長等は、成年後見人制度について説明出来る知識を有しています。現在は、成年後見人制度を活用しておられるご利用者様はいませんが、必要に応じてご家族様に説明出来るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に先立ち、必ず管理者が重要事項について説明させて頂き、ご家族様にサインを頂くようにしています。又、その際に不安や疑問に思っている事等を確認し、その旨について説明するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社から年に1度ご家族様宛てに直接ご意見やご要望をお伺いするアンケート調査が実施されています。その内容が介護現場にフィードバックされ、業務改善に反映させています。	家族アンケートを活用して結果内容を検討し、サービスに活かしている。接遇マナー研修を行うことで利用者や家族との交流が増えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内に、社長室行き鍵のかかるメールボックスが設置してあり、また社長室宛てのメールアドレスに自由に意見を送れるようになっています。	管理者・フロア一長は、常に相談・意見が言える環境づくりに気を配っている。意見が出る会議が開催できており、職員発案の食事は継続開催できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの資格取得の為に研修や奨励金制度の導入等で、スキルアップに報いる方途としています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修専門の別会社を傘下に持ち、職階別或いは経験年数別の研修を毎月のように実施しています。又、自己啓発研修にも自由に参加できるようになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護従事者実践者研修を初めとして、外部研修の費用を会社負担とする等、資質向上の為に機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たって、管理者や計画作成担当者が必ずご本人様と面談し、ご意向の確認を行ない、サービス開始時の暫定プランに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に当たっては管理者のみならず、担当ユニットの責任者がご本人様やご家族様と出来るだけお話させて頂く機会を作り、スムーズな新生活が出来る様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「必要な人に必要なサービスの提供を」の法人理念に立ち、実態調査時にはご本人様・ご家族様にとって、どのようなサービスが一番良いかを考え、提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点からも、日常生活上の家事等は、ご本人様の負担にならない範囲で一緒に行なって頂くようにしています。事業所内のしつらえ等も、ご利用者様と一緒に作成するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する状況報告や面会時にご利用者様の状況等の共有する事により、ご家族様での通院対応や外出・外泊等の協力を繋げ、ご家族様にも共に支援させて頂く関係を構築しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのご友人が面会に来られたり、ご家族様と一緒に馴染みの場所へ外出する等、良い思い出を大切にしている様にしていきます。	近隣に住んでいる親族・友人や遠方の孫・ひ孫など世代問わず面会があり、家族とお墓参りや外泊などされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での席の配置に気を配り、介護職員が会話をリードする等して、ご利用者様同士の会話が弾むように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節ごとのご挨拶や定期的な連絡を絶やさない様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を細かく確認する為のシートを活用し、各スタッフがご本人様のご意向を聴くだけではなく、積極的にサービスの在り方を協議し、よりよい生活環境の提供を心掛けています。	生活歴シートを活用し、入所前のアセスメントを基に日々の関わりの中で希望されることを把握している。表情や行動・言動などで、本人の想いを聴くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時等を通して、ご本人様やご家族様から生活歴等の情報を出来るだけ集め、サービスの向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、バイタル表等、各種の記録を詳細にとる事で、常に変化するご利用者様のご様子の把握に努め、必要に応じて医療関係者と連絡を取る等して、状況の把握を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時・ケアプラン更新時には、必ずご本人様・ご家族様の評価やご意向をお伺いし、カンファレンスを開いてより良いサービスの提供を心掛けています。	3か月から6か月でプランの見直しをしている。家族にモニタリングをして頂き、利用者・家族からの希望を確認している。毎月の会議にて職員の意見・医療情報などを共有し、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノート等を活用し、情報をや問題意識を担当職員間で共有し、カンファレンス時等に深い議論が出来る様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なタイプの職員を組み合わせ配置する事で、様々なサービスの提供を心掛け、職員自らが楽しく仕事出来る様に常に新しい情報収集を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で自治会長様から様々な地域行事の情報を頂くとおり、豊かな生活環境作りの一旦としています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の医師や看護師がおり、ご家族様の了承を頂いた上で様々な医療相談・往診・受診の便宜を図ってもらっています。	内科・歯科の訪問診療を受診し、専門科医療受診は家族対応となっている。家族付添いの際には情報シートを使用し、病院・家族・ホームで状態が把握できるようにしている。夜間看護師に指示を仰ぐ体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診時以外にも、発熱や痛みの訴え等軽微な症状でも密に連絡を取り、指示を仰いだ上での対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー等の情報提供をしたり、こまめに面会に伺い、その際に担当看護師等から様子を伺うようにしています。退院時においても、状況把握と退院後のサービスの在り方について、医療機関や訪問看護等と情報交換するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時、医療行為が必要になった際の対応について、予めご家族様と話し合いを重ね、様々な施設の情報を提供する等、早めの対応を心掛けています。	重度化に関する指針があり、契約時に必ず説明を行っている。状態の変化の中、毎月送付するひとこと通信や必要に応じ家族に密に連絡を行うことで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策委員会を初めとする様々な研修への参加や、そのフィードバックにおいて救急対応のノウハウの習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を夜間想定を含め実施し、地域の消防署からの指導を頂き、緊急時・災害時の対応力を身につける様になっています。	年2回昼・夜間想定の実施。消防署員立ち会いで行い、必要な指示助言を頂いている。日中は隣が法人本社であるため、協力体制がある。緊急連絡網では駆けつけられる順番に調整し、作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にご利用者様一人ひとりの人格や個性を尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けや対応を心掛けています。居室小窓に色紙を貼る等し、居室内が丸見えにならない様に配慮しています。	棚に保管する個人記録ファイルは、個人名が記載されている背を内部にしている。個人情報については年1回研修を行っている。入浴は1対1で対応し、居室ドアの小窓は折り紙等で飾りプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中ではご本人様の自己決定を促す様な言葉掛けを心掛けています。過去の生活歴やご家族様からの情報を元に、ご本人様の隠れたニーズまで掘り起し、より心豊かな毎日を送って頂けるようにサポートしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活サイクルやペース・嗜好を大切に、レクリエーションやお手伝い等においてもご自身の意思を尊重するようにしています。起床時間や就寝時間においても、幅を持たせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の了承を頂いた上で、ご本人様と近くの洋品店で洋服を買う等、ご本人様好みのおしゃれが出来る様支援しています。又、口紅やマニキュア等も自由に楽しんで頂ける様な体制を整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当ホームでは日常の食事に関しては外注しており、主に下膳や片付け等を一緒に行なって頂いています。又、季節の食材を取り入れた食事会やおやつ作り等を企画・開催しています。	調理は外部に委託している。食器拭き・洗いを一緒に行っている。イベント食では個々の希望を取り入れ、季節の食材での料理や手作りおやつは利用者も楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた食事形態に細かく配慮したり、朝のお茶から始まり、様々なお飲物をご用意させて頂く事で無理なく必要な水分量を楽しく摂って頂ける様工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず全員の口腔ケアを実施し、医療連携の歯科医師や歯科衛生士からお口の中の健康維持についてのアドバイスを得て実行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用する事で各々の排泄パターンの把握に努め、こまめなトイレ誘導や声掛けをし、排泄の自立に向けて取り組んでいます。	排泄チェック表を活用して排泄リズムを把握している。定時の声かけや個々のパターンに合わせた声かけ援助をしている。トイレの扉には使用がわかりやすい札を吊るしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康体操を取り入れたり、オリゴ糖等を摂取して頂く等して順調な排泄を心掛け、必要に応じて医師の指示の下、服薬によるコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂がお好きな方、温めのお湯がお好きな方等、様々なご希望に出来るだけ添える様努めています。	希望の入浴日・回数を相談し、一人ひとりの希望に沿えるよう対応している。しょうぶ湯やゆず湯で季節を感じたり、皮膚の状態に合わせて入浴剤を使用している。同性介助の希望には、できる範囲で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の習慣のある方、夜比較的遅くまで起きておられる方等、お一人お一人のリズムを大切に、起床・就寝の時刻を強要しない様心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常的に使用する記録のファイルに、服用している薬の薬表が入れてあり、変更があった場合には申し送り等で職員全員が把握する様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにご本人様の生活歴や嗜好・希望等が記載されており、それに基づきケアプラン等にも反映させているが、日常の会話等の中からもご本人様の想いを汲み取れる様努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の立地条件からなかなか気軽に外出するのが難しいが、庭にテーブルや椅子を持ち出し、外気浴をしながらおやつを召し上がって頂く等、季節の移り変わりを感じる事が出来る様、工夫しています。お花見等では大宮公園に出掛けたり、近くの幼稚園の敷地内の桜を眺めさせて頂く事もあります。	近所の店に個別で行ったり、駐車場で外気浴をしている。お正月に近くの神社に初詣に行ったり、春には近隣の桜を見に出掛けており、希望を聞きながら外食や買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の状況に応じて、ご家族様の了承の下、少額の現金を持って、時折買い物を楽しまれていたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる様、ご本人様の話した事を代筆して差し上げたりしています。又、電話を掛けたいというお申し出には、基本的には事業所の電話をご利用頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、館内のしつらえを変えたり花を飾ったりして、季節感を演出しています。ディスプレイはご利用者様にも一緒に作成して頂き、思い出深いものになる様工夫しています。	廊下には職員と利用者が作成した季節の物を掲示している。食堂のテーブル・ソファなどの配置は、安全に過ごせるような配慮がされている。トイレは車いすで入れる空間がある。掃除は1日1回できる利用者とともに職員が行い、衛生管理を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは憩いの場として、ソファの配置や畳の間を設けて、ご利用者様が独りになれたり、ご利用者様同士で思い思いに過ごせる居心地の良い環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からお持ち頂いた使い慣れた家具類、写真や本・テレビ等を居室内に置いて、少しでも心安らげる空間になる様工夫しています。	ベッド・クローゼット・カーテン等の備品があり、すぐに生活できる状態になっている。使い慣れたタンスや化粧台・机などを持ち込んでいる。壁には絵ハガキや写真を貼り、家族とのつながりを忘れないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	消防署の指導の下に、安全な避難経路の確保に努めながらも、季節感のある空間を演出したり、マニキュア等のお洒落が楽しめる様に支援する等、少しでも豊かに過ごして頂ける様努めています。		